

J.M. Keynes と書誌学
—John Locke の *An Essay on Human Understanding*
(1690) を例に—

武者小路 信和
(大東文化大学文学部)

はじめに

周知のように、John Maynard Keynes は経済学者としてだけではなく、官僚、国際交渉の担当者、コレッジの財務担当者、編集者、経営者、投資家、哲学者、伝記作家、絵画蒐集家、芸術活動の振興者など、さまざまな側面をもっていた¹⁾。さらに、書物蒐集家としての側面も加わり、そのコレクションは高く評価されている²⁾。しかし、書物を熱心に蒐集し、優れたコレクションを作り上げたという（狭義の）「書物蒐集家 (book collector)」として Keynes を捉えるだけでは不十分であろう。Keynes と書物との関わりは、その活動と同様に広範囲にわたっている。Keynes は人一倍本を読んだ。コンディション、値段にこだわりながら、基本的に好みに合う本だけを選択的に集め、またそのための努力をおしまなかった。製本、印刷など、「モノ」としての書物を鑑賞すると同時に、異版などの書誌学的な問題や由来について調べることを好んだ。さらに、読んだ本の感想や古版本について調べた結果について語る（手紙に書く）ことも、知人に本をプレゼントしたり、貸与したり、そして所蔵していた本を売ることも、楽しんでいたように思われる³⁾。

本稿では、Keynes のそのような書物との関わりの中から、書誌学への関心について取り上げたい。Keynes の書誌学への関心は、古書の蒐集と密接に関わっており、彼の知的好奇心を刺激する楽しみとして生涯継続されたが、書誌学的な調査の結果は知人や古書業者との

会話や手紙を通じて「蘊蓄」として披露されることはあっても、公表されることはほとんどなかった。その少数の例外が1936年7月発行の *Bibliographical Notes & Queries* 誌に掲載された2編の短報である。一つが、John Locke の *An Essay concerning Human Understanding* (London, 1690) (以下、『人間悟性論』と略す) の初版に関する質問・回答に対し、Keynes が自分の解釈を述べたものであり、もう一つが、I. Newton の *Principia* (London, 1687) の初版および書き込みについて彼の解釈を述べたものである。今回は、前者の『人間悟性論』をめぐる書誌学的な議論を通して Keynes の書誌学への関心の特徴をみることにしよう。

Keynes の書誌学への関心

Keynes が、書誌学、つまり印刷、活字、紙、造本など、「モノ」としての書物に残された具体的な物理的証拠に基づいて、その書物の本文、印刷・造本工程や出版にまつわる疑問を解明する「謎解き」の面白さに関心をもった時期はかなり早く、おそらく Eton College 在学時、つまり古典資料の購入を含む本格的な蒐集家への道を歩み始めた頃であろう。1902年に彼が作成した蔵書目録(330点)⁴⁾には、著者名、書名などの書誌事項のほか、入手先、値段、製本、読了年月日、補足説明などが記録されており、書物蒐集への傾倒ぶりをうかがわせる。

さらに Cambridge 大学 King's College の学生であった1903年には、友人らと The Baskerville Club (-1931) を設立し、18世紀のイギリスの代表的な印刷家 John Baskerville の刊本の書誌⁵⁾を編纂・刊行するとともに、熱心に会合に出席して書物談義を楽しんでいる。Cambridge 大学図書館に所蔵されているクラブの議事録⁶⁾をみると、1903年12月の第2回目の会合では、Baskerville が刊行した4折判 *Virgil* について議論し、少なくとも7種の異本 (different states) が存在することが判明し、今度ではできるだけはやく Milton のさまざまな異本を調査することになったことが、記載されている。同じ1903年には、The Bibliographical Society (英国書誌学会：1892年設立) の会員にな

り、生涯を通じて会員でありつづけた⁷⁾。おそらくこの学会が Keynes にとって最初に加入した全国的・国際的な学会であり、また会員期間の最も長かったものであろう。

Keynes の旧蔵書⁸⁾をみると、Newton の *Principia* (1687) の初版は 4 部、Hobbes の *Leviathan* (1651) の真の初版が 3 部、Locke の『人間悟性論』(1690) が 3 部というように、重複本が非常に多く含まれている。これは、異版・異本などを調査するためには同じ本同士を比較照合する必要がある、ケインズの書誌学への関心の強さを反映するものといえよう。また、蔵書の中に書誌類、書誌学・書物史関係の文献が比較的多く、「本に関する本」の読書を楽しんでいたことが推測される。また Newton や Hume の書誌などには、かなり多くの書き込みが残されている。

J. Locke 『人間悟性論』初版をめぐる書誌学的な議論

以前から、John Locke の『人間悟性論』(London, 1690) には、本文などの中身は全く同じだが、標題紙に以下のような違いの見られる 2 種類が存在することが知られていた。

- ① AN ESSAY CONCERNING Humane Understanding. ... LONDON: Printed by Eliz. Holt, for Thomas Basset, at the George in Fleetstreet, Near St. Dunstan's Church. MDCXC. (以下、[A] と略す)
- ② AN ESSAY [SS inverted] CONCERNING Humane Understanding. ... LONDON: Printed for Tho. Basset, and sold by Edw. Mory at the Sign of the Three Bibles in St. Paul's Church-Yard. MDCXC. (以下、[B] と略す)

1935年10月の *Bibliographical Notes & Queries* 誌 1 巻 4 号に G.G. という名前のもとに、[A] と [B] のどちらも初刷の特徴を備えているとするならば、なんらかの前後関係が存在するのかという疑問が寄せられた⁹⁾。この質問に対し、1936年5月の同誌 2 巻 4・5 号で T. Warburton は、① Seymour de Rici が *Book Collector's Guide* (1921) において [A] をリストし、標題紙に異同のある 2 つの発行 (issue)¹⁰⁾ の存在を指摘し、「第 1 発行 (= [A]) は日付のない the Earl of

Pembroke への献辞を含んでいる」と付け加えていること、②当時の販売書誌 *Term Catalogue* の唯一の記入が「Printed for T. Basset at the George in Fleet Street」(= [A]) であることから、[A] が先であることは明確な結論であるように思われると指摘した¹¹⁾。

Keynes は同誌 2 巻 6 号 (1936 年 7 月) に次の記事を投稿した¹²⁾。

貴誌の 5 月号に掲載された質問 78 番への回答はおそらく誤解を招きやすいものである。Locke の *Human Understanding* の初版には、2 種類の標題紙が存在する。「Printed by Eliz. Holt for Thomas Basset」と記載されているものと「Printed for Thomas Basset by Edw. Mory」と記載されているものとである。一般に本屋によって前者が第 1 発行、後者が第 2 発行と記述されている。私はこの根拠を知らないが、2 つの間の区別が、前者が日付のない the Earl of Pembroke への献辞を含んでいることにあるということは誤りである。Locke の *Human Understanding* 初版の全てのコピーにおいて、標題紙がどちらであろうと、献辞には日付がなく、日付が最初に現れるのは 1694 年の第 2 版である。正誤表もまた両方の発行において同一である。

いわゆる第 1 発行のほとんどのコピーにおいて、Epistle Dedicatory の最後のページの「certainly」がインクで「extremely」と訂正され、また Epistle to the Reader の最初のページの「Discovery」の前に単語「some」が挿入されている、と私は考えている。しかし、いわゆる第 2 発行において、両方の発行に共通する正誤表には含まれていないこれらの誤りは訂正されていない。その真価はわからないけれども、それによって、この証拠がいわゆる第 2 発行に優先権を与えるように思われる。他の方々にも、インクによる訂正に関して、不十分な調査に基づく上記の一般化の検証をお願いしたい。

つまり、前段では Warburton の文章では [A] のみが日付のない献辞を含んでいて、それが識別のポイントになるかのような誤解を与えているが、実際には [A] と [B] の両方が日付のない献辞を含ん

でいるので識別のポイントにはならないこと、また後段とのからみで正誤表も共通していることを明確化した。後段が Keynes 独自の発見・推理を述べた部分で、[A] のコピーでは正誤表に含まれていない訂正が手書きで書き込まれているのに対し、[B] のコピーではそれらの訂正が書き込まれていないことに Keynes は気づき、従来考えられていた [A] が先で [B] が後という前後関係ではなく、最初に気づかなかった誤植部分を後で気づき手書きで訂正したのではないかと考えると、訂正のない [B] の方が先で、訂正のある [A] の方が後ではないかという推理を披露したわけである。ただし、Keynes が実際に調査することのできたコピーの数が少なかったため、結論を急がずにさらなる調査を呼びかけた内容になっている。

果たして Keynes の推理は正しかったのであろうか。

1938年1月の同誌2巻9号に書誌学者 John Carter が投稿し、以下の点を指摘した¹³⁾。

- ① [A] を6部、[B] を5部調査したところ、手書きの訂正に関する Keynes の指摘と一致していた。しかし [B] のコピーに手書きの訂正がないことが前後関係についてのなんらかの必然的な関わりがあるとは思えない。
- ② 調査した全ての [A] のコピーの標題紙は、最初の折り丁の一体化した部分である (=差し替えられていない)。それに対し調査できた [B] のコピーにおいて、標題紙は差し替えられていた。
- ③ [A] の標題紙のオーナメントが30個を正方形に配置したものであるのに対し、[B] のそれは23個からなるより小さく均斉を欠いたものになっている。
- ④ [B] の出版事項中の「and sold」は、“Basset が「企画者 (undertaker)」あるいは出版者である一方、Mory は「原稿 (copy)」と発行部数の一部を分担所有するか、または少なくとも公式の卸しであったことを示している。そしてそうした場合、彼が卸すはずの発行部数の一部のため、差し替え標題紙 (いくつかの他の書店が関わっている場合には、複数の差し替え標題紙) が印刷されるのが慣習であった。私は、このことがいわゆる第2発行 (= [B]) の標題紙の説明であるにちがいないと思っている。おそらく Basset は彼の前付けを

手書きで修正したが、他方 Mory はそうすることを怠った。”

⑤ *Term Catalogue* の出版事項の言葉遣いは、Basset が出版者であり、Mory が補助的な人物であったことを明らかにしている。

⑥ しかし、ここまで提示した証拠によって、前後関係が確立されたわけでも、示唆されたわけでもない。

残念ながら、Keynes の思いつきのような推理よりも Carter による書誌学的な分析と出版史の知識に基づく指摘の方がより説得的であったことは、やむを得ないことであろう。とくに標題紙が [A] では差し替えられていないのに対して、[B] では差し替えられていることの発見は重要であり、しかもその差し替えが行われた理由も当時の慣習と一致することが指摘されている。これらの説明から、[A] の標題紙を含む全紙を発行部数分印刷した後、その発行部数の一部については標題紙 [A] を削除し、別に印刷した標題紙 [B] を貼り付けた (= 差し替えた) と考えるのが一番可能性の高いことになる。そうであれば当然順番は [A] が先で、[B] が後になる。古版本のなかのどの紙葉が差し替えられているかを見つけたことは、すぐに気づくようなケースもあるものの、必ずしも容易なことではなく、十分な書誌学の知識と経験が必要とされる。Keynes がこの重要な手がかりとなる標題紙の差し替えに気づかなかったことは、彼の書誌学の知識と経験が十分ではなかったことを物語っているといえよう。また Keynes の推理の根拠となった手書きの訂正についても、単純に Basset は自分の持ち分のコピー ([A]) に手書きで訂正したが、Mory は自分の持ち分のコピー ([B]) に手書きでの訂正を行わなかったという Carter の推理の方がやはり説得的である。

最近の『人間悟性論』の書誌学研究においても、基本的に Carter の見解が踏襲されている。『人間悟性論』の本文校訂を行った P.H. Nidditch は、[A] が [B] よりも先である根拠として、① Locke がノートなどで言及しているのが [A] のみであること、② *Term Catalogue* に収録されているのが [A] のみであること、③ Locke が『人間悟性論』の出版に関して合意した唯一の契約相手の本屋が Basset であること、④ [B] の標題紙が差し替えられていること、を挙げている¹⁴⁾。また、Locke の記述書誌を編纂した J.S. Yolton も、[A] の方

が先と考えられる理由として、[B] の標題紙が差し替えられていることを指摘し、本文ページの印刷が全て終わった後で、Basset が販売を手伝って貰うために Mory と何らかの資金的な取り決めをしたのであろうと推測している¹⁵⁾。この点について、Johnston は“おそらく Mory は *London Gazette* 1690年 5月29日号に掲載された出版者として彼の名前の拳がっている広告が出る直前にこの本に対する権利を獲得したのであろう”と述べている¹⁶⁾。

さらに、Nidditch が書誌を編纂する際にさまざまな図書館に所蔵されている『人間悟性論』を調査したなかには、出版時に Locke が献呈した本が 3冊含まれており、数は少ないものの、それらがどれも [A] であること¹⁷⁾は、[A] が先であることの補強証拠となるように思われる。

なお、*Bibliographical Notes and Queries* 誌上における『人間悟性論』をめぐる議論は、Carter の指摘によって前後関係についての一応の結論がでたため、標題紙上の特徴に関する事柄に移っていった。

1938年 4月の同誌 2巻10号に再度 G.G. が投稿し、その内容は、過去十年余りのアメリカの売立目録では、その典拠を示すことなく、標題紙の「ESSAY」の「SS」の上下がひっくり返っていることが第一発行の印であるとしているが、その目録記述は [B] の方と一致しており、[B] を誤って第一発行と示唆しているようなので、その点の確認とひっくり返った「SS」が何らかの意味を持っているのかどうかを Carter に質問するものであった¹⁸⁾。それに対し、Carter は1939年 5月の同誌 2巻12号において、再調査を行ない、あらゆるケースにおいて [A] は「SS」が正しく組まれているのに対し、[B] ではそれがひっくり返っていること、そして“異同のある標題紙のうちの一つに固有の継続的な特徴であり続ける限り、この反転になんらかの重要性を認めることはできない”と回答した¹⁹⁾。この投稿を最後に『人間悟性論』をめぐる議論は終止符を打つことになった。

おわりに

Keynes が *Bibliographical Notes and Queries* 誌に投稿した 2編の記事

一本稿では Newton の *Principia* に関する記事を取り上げることはできなかったが—は、どちらも基本的に自分の蔵書をもとにした限られた調査結果であったために、するどい指摘はあるものの、分析・解釈が十分でなく、さらなる調査を呼びかけるものに終わっている。こうしたことから、ケインズを書誌学者と呼ぶことには抵抗を感じるものの、自分の蔵書をもとに書物にまつわる謎解きを楽しんでいたということから、An Armchair Detective (安楽椅子探偵) ならぬ An Armchair Bibliographer (安楽椅子書誌学探偵) であった、と形容することが適当であるように思われる。

【注】

- 1) ミロ・ケインズ編『ケインズ 人・学問・活動』(東洋経済新報社 1978) 参照
- 2) “あと10年長生きしていたら、ケインズは、彼の世代だけでなく(その程度なら彼はすでにそうであった)、弟のジェフリーと同じく、今世紀を代表する古書蒐集家のひとりとなっていたらう。彼はごく若いころに、若干の稀覯本を手に入れた学者の域から、はっきりしない境界線をこえて、本格的な蒐集家になっていた。…”(ミロ・ケインズ編『ケインズ 人・学問・活動』(東洋経済新報社 1978) p. 370)
- 3) Keynes と書物の広範囲にわたる関わりについては、今後主に King's College 図書館所蔵の Keynes 旧蔵書および King's College Modern Archive Centre 所蔵の Keynes 文書を利用して、順々に明らかにしていく予定である。
- 4) Scrase, David and Peter Croft. *Maynard Keynes: Collector of Pictures, Books and Manuscripts*. (Cambridge: Provost and Scholars of King's College, Cambridge, 1983) p. 68
- 5) 武者小路信和「バスカーヴィル・クラブ会誌 第一号」『塾』(慶應義塾広報室) 27 (3): [37] (1989.6)
- 6) *The Minute Books of the Baskerville Club*. [CUL, Add 6673]
- 7) *The Bibliographical Society 1892-1942: Studies in Retrospect*. (London: Bibliographical Society, 1945) p. 191
- 8) Keynes の旧蔵書といっても、彼が生涯をかけて集めた全ての書物を含んでいるわけではない。遺された書物のコレクションは、遺言にしたがって、基本的に King's College 図書館と Cambridge 大学 Marshall 経済学図書館とに寄贈された。前者(約六千冊?)については、カード目録が作られているので、その内容を知ることがで

きるが、後者 (my working library of economic books) については、一般蔵書と同じ扱いになったため、現在のところ個々の本のタイトルはおろか、規模・冊数についてすら判明していない。さらに、どちらの図書館にも寄贈されなかった分や Keynes 自身が生前寄贈・売却するなどして手放した本もある。(なお、King's College 図書館所蔵の Keynes 旧蔵書には、彼の死後に補充・寄贈された本も含まれている。)

- 9) G.G. "78. Locke: *Human Understanding* (London, 1690)" *Bibliographical Notes and Queries*. 1(4): 9(1935.10)
- 10) 書誌学用語としての「発行 (issue)」は、理想本の基本的形態とは区別される、意図的に計画された出版単位として制作されたすべてのコピーを意味する。高野彰『洋書の話』増補版 (丸善 1995) p. 166-173参照。なお、『人間悟性論』初版の場合、実際にはオリジナルの組版によって刷られた全紙を使用しているながら、標題紙だけを差し替えた再発行を伴うために、2種の発行が存在する。
- 11) Warburton, T. "Query No. 78. Locke: *Human Understanding* (London, 1690)" *Bibliographical Notes and Queries*. 2(4/5): 3(1936.5)
- 12) Keynes, J.M. "Query No.78. Locke: *Human Understanding* (1690)" *Bibliographical Notes and Queries*. 2(6): 2(1936.7)
- 13) Carter, John. "Query No. 78. Locke: *Human Understanding* (1690)" *Bibliographical Notes and Queries*. 2(9): 2(1938.1)
- 14) Nidditch, Peter H. "Introduction." In: Locke, John. *An Essay Concerning Human Understanding*. Ed. by Peter H. Nidditch. (Oxford: Clarendon Press, 1975) p. xvii
- 15) Yolton, Jean S. *John Locke: A Descriptive Bibliography*. (Bristol: Thoemmes Press, 1998) p. 69
- 16) Johnston, Charlotte S. "The printing history of the first four editions of the *Essay concerning human understanding*." In: Aaron, Richard I. *John Locke*. 3rd ed. (Oxford: Clarendon Press, 1971. p. 315
- 17) Yolton, *Op. cit.*, p.70-73
- 18) G.G. "Query No. 78. Locke: *Human Understanding*. 1690. (Vol. I, No. 4, p. 9; II, No. 9, p. 2)" *Bibliographical Notes and Queries*. 2(10): 1(1938. 4)
- 19) Carter, John. "Query No. 78. Locke: *Human Understanding*. 1690. (Vol. II, No. 10, p. 1)" *Bibliographical Notes and Queries*. 2(12): 1(1939.5)